



令和3年1月26日
日本保健物理学会・令和2年度企画シンポジウム

放射線とそのリスクに関する 一般公衆との関わりのための実践的ガイダンス

IRPA Practical Guidance for Engagement with the Public on Radiation and Risk

吉田浩子 東北大学
IRPA 理事
パブリックアンダースタンディング タスクG委員長





IRPA Strategic Priorities

IRPA 戦略的優先事項

- To support the Associate Societies by developing, enhancing and **sharing good practice and high standards of professionalism.**

優れた実践と高いプロフェッショナリズムの水準を開発、強化、共有することにより、加盟学会を支援する。

- To support the **education and training** of RP professionals

RP専門家の教育と訓練を支援する。

- To promote our role as the **international voice of the RP profession**

RP専門家の国際的な声としてのIRPAの役割を促進する。

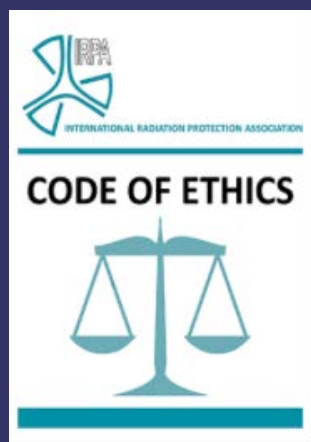




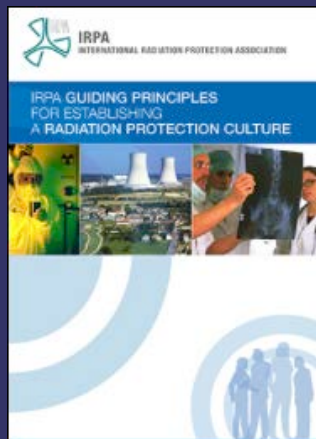
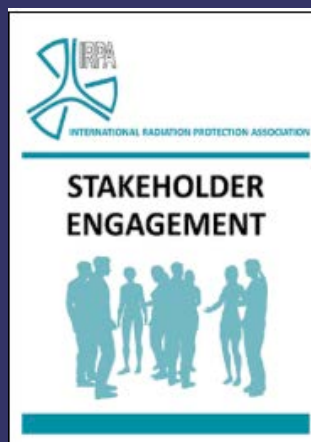
Strategic Priority 1 戦略的優先事項 1

Professionalism and Good Practice

優れた実践と高いプロフェッショナリズム



PRINCIPLES
原則



PRACTICES
実践



ガイダンス作成の作業過程

Public understanding and communication of radiation and risk is one of the principal issues raised in the IRPA's consultation. 加盟学会：放射線とそのリスクの公衆理解とコミュニケーションが主要課題の一つ

- 2017 Task Group on Public Understanding, 14 AS + IOMP PUタスクグループ
- 2018 May AOCRP-5 (Melbourne, Australia),メルボルン,オーストラリア
- June Discussions at the 5th European Regional Congress in Hague ハーグ
- June The first IRPA regional workshop, supported by RICOMET, Antwerp 第1回IRPAリージョナルWS,アントワープ
- June 5th African IRPA Congress (Tunis, Tunisia) チュニス,チュニジア
- Sep SRP Annual Conference (Scarborough, UK) スキャボロ,イギリス
- 2019 May Consultation about the IRPA draft guidance with the RICOMET, Barcelona delegates ドラフトコンサルテーション バルセロナ
- July “IRPA Workshop on Guidance for Engagement with the Public” took place in association with the HPS Annual Meeting in Orlando. HPSの年会でワークショップ開催
- July The IRPA draft guidance was issued for consultation of the Associate Societies 加盟学会に ドラフトコンサルテーション
- Nov
- Dec JHPS Annual Meeting (Sendai, Japan) 仙台,日本
- 2020 Oct IRPA Practical Guidance for Engagement with the Public on Radiation and Risk was launched. Available on the IRPA website ウェブサイトで公開
<https://www.irpa.net/page.asp?id=54777>



IRPA ガイダンス; 目次

1. なぜ一般公衆(市民)と関わるのか?
2. 「一般公衆(市民)」とは誰か?
3. 基本となる3つの考え
4. コミュニケーションとエンゲージメント戦略
5. コミュニケーションのグッドプラクティス
6. 異なるメディアの使用
7. 具体的な各状況のためのガイダンス
8. RP加盟学会の役割
9. 個々のRP専門家の役割



1. なぜ一般公衆（市民）と関わるのか？

public understanding, trust and consent are central to ensuring effective and proportionate radiation protection without unduly limiting the safe use of medical, scientific and industrial radiological practices for the benefit of mankind.

公衆の理解、信頼、同意は、人類の利益のために医療、科学、工業用放射線の安全な使用を過度に制限することなく、効果的かつ見合った放射線防護を確保するための中心である。

ガイダンスの目的

1. To **enthuse** all of us in our profession to become **more active public advocates for radiation protection**.
1. 私たちの専門に携わるすべての人が、放射線防護のために**より積極的に一般市民の擁護者**となるように励ますこと。
2. To **provide** information, experiences and techniques to help us to become **more effective and comfortable** in this challenging task.
2. この困難な仕事を**より効果的かつ快適に**こなすための情報、経験、技術を**提供**すること。

ガイダンスの狙い

「何を」言うかではなく、「どのように」関わってコミュニケーションをとるかを提供する。



2. 「一般公衆(市民)」とは誰か?

- 学童
- 患者
- 地域住民
- NGOs
- 高ラドン住宅
- 公聴会
- Etc etc
- 一般の関心のある団体
- 政治家
- 母親と家族
- 避難住民
- 市民科学者
- 裁判例

そして、ジャーナリスト(媒介者として)
多様!

No “one size fits all” answer. すべてに当てはまる「ワンサイズ」の答えはありません。うまく交流するには多くの戦略、スキル、テクニックの活用が必要。





3. 基本となる3つの考え

3.1 放射線リスク科学

- ✓ 「数ミリシーベルト/年以下」のレベル,自然のBGの支配領域である。
- ✓ 実際に最も関係しそうなレベル（数mSv/年程度）、現在の放射線に関する知識では、リスクがあるとしてもそれは非常に小さく社会で通常受容されているリスクと同程度

3.2 リスク認知（認識）

- ✓ 一般人とRP専門家との間の放射線リスクの認識のギャップ。
- ✓ これらの異なる認識を理解し、認識する

3.3 ベネフィットとリスク

- ✓ RP専門家は、ベネフィットとリスクの枠組みの中で常に可能な限りのエンゲージメント（関与）をするよう努める



4. コミュニケーションと エンゲージメント戦略

戦略を定義し、実施計画を策定する。;

- ✓ 目的を定義する
- ✓ 聴衆を定義する。
- ✓ メッセージ、テキストやグラフィックの例を作成し、主要なコミュニケーション
とエンゲージメントの方法/チャネルを選択する。
- ✓ 仕事、資源(人・予算)、タイミングを計画する。
- ✓ 戦略と計画を評価し見直す。
- ✓ ステークホルダーエンゲージメント戦略をたてる。



5. コミュニケーションのグッドプラクティス

「心でだけ理解され得ることがある。」

Empathy エンパシー をもって向き合う。

5.1 「科学者としてではなく人間として」

ケーススタディ: 丹羽先生の福島ダイアログからの経験

‘放射能ではなく、人々の生活についての問題’



5.2 コミュニケーションとFace-to-Faceエンゲージメントにおける
主な共通課題

5.3 ‘安全なのですか?’

"良い会話は聞き上手から始まる"

6. 異なるメディアの使用

- ✓ ウェブやソーシャルメディアでのコミュニケーションのヒント
- ✓ メディア・記者会見のヒント
- ✓ メディアキットの準備



7. 具体的な各状況のためのガイダンス

- ✓ 医療被ばく
- ✓ 非電離放射線
- ✓ ラドンに関して
- ✓ 放射線廃棄物処理
- ✓ 放射線・原子力の緊急事態
- ✓ 放射線源の悪い使用
- ✓ 事故後及び長期の復興状況



医療被ばく



電離放射線の医療応用における効果的なコミュニケーションのヒント。例えば

- 一貫性があり、正確であること。曖昧さや推測を避ける。
- 言葉を慎重に選ぶ。「死亡の危険性」などの表現は避ける。
- 患者は病気や体調不良のため、すでにストレスを抱えている可能性が高いことを忘れないでください。
- かなりのストレスを受けているときは、人の話をよく聞かない傾向があり、非合理的な感情的な意見や結論に飛びつく可能性があることをおぼえておいてください。 …



ラドンに関して



ラドンに関する効果的なコミュニケーションのためのヒント。例えばラドンに関連したメッセージは短く、行動を呼びかけるものである。—積極的に、明確に、個人向けに、直接stakeholderに対処

例 家族を守るためのテスト, 修理, 救命

3つの短い文章でメッセージを構成します。例えば:

- ✓ ラドンは無色、無臭、無味の放射性ガスである。地中から出て建物内に入り込み蓄積することがある。ラドンの存在は特別な装置で測定しなければならない。
- ✓ 技術的な手段によって家からラドンを追い出すことができます。比較的簡単で難しくはありません。(高)ラドン地域の新しい住家ではこれらがすでにくみこまれているべきです。...



放射線・原子力の**緊急事態**



放射線・原子力の緊急事態での効果的なコミュニケーションのためのヒント
例えば

- 危機的状況でコミュニケーションをとることは困難なことです。感情が高まり、ストレスレベルが高くなります。
- IRPAは、「27-9-3ルール」を提案しています。

9秒以内の時間枠内で27語以内、3つのポイント以上を論じないこと。その中で説得力のあるポイントを作るためのコミュニケーターが必要です。

このメッセージは、あなたの全体のアピールを提示する場所ではありません
-聞く人が防護行動をとり、放射線から身を守るために必要な行動をとるように、聞き手を惹きつけるに十分であること。 ...



事故後及び長期の復興状況



一般の人々に放射線防護文化を展開し育成することは、最も重要な課題の一つです。;

より広いステークホルダーとの交流は、RP文化の展開と応用を支援することができます。その目標は、一般の人々が自分の状況を再びコントロールできるようになるのに役立つ実践的なRPのアドバイスを提供することです。

“（ふるさとに帰還する方のための）暮らしの手引き”の経験RP、社会心理学、農業、医療、保健、医療などの専門家と自治体の専門家グループによって作成されました。この冊子では、「共同知」のプロセスから得た住民からのよくある質問と専門家からのアドバイスやヒントを紹介しています。





次のステップへ!

- ✓ IRPAは、すべての加盟学会に対し、パブリック・エンゲージメント・プログラムの強化を積極的に推進するよう呼びかけています。
JHPSでは、IRPAガイダンスの日本語訳WGを立ち上げました。



IRPAは、放射線防護システムの開発とその実践的な適用における国際機関の活動をサポートしています。



ガイダンスの作成にご協力いただいたすべての方々にIRPAから感謝の意を表します。



ご清聴ありがとうございました。